

「アトピーの完全治療の実践会」の無料レポート

20年も私を苦しめたアトピー。アトピーの人をみるだけで、過去の嫌な思い出が脳裏をよぎります。何故かかゆくなります。本気で撲滅したい病気です。一人でも多くの方がこの病気から解放されることを願います。

私自身20年間アトピーでした。完治歴8年です。

しかし、普段の生活の中でアトピーへの恐怖は意識せずにはられません。

自分がアトピーだと忘れているときは、非常に体の調子がいいのですが、まわりにアトピーの人間がいると意識してしまいます。話をしているとき、話をしながらぼりぼりしている人を見ると私までかゆくなります。「もう！やめてくれ！！」と言いたくなることもしばしばです。私も経験者です。その気持ちと習慣はよくわかります。わかりすぎます。

しかし、あえて声を大にして申し上げます。

「もう！やめてくれ！！」

いたたまれない気持ちになり、このサイトをはじめました。

もう、治らないとあきらめている方へ

- ＞ そんなことはないですよ！
アトピーは治ります。

自分はまだ薬を塗っていないので治ったという方へ

- ＞ そんなことはないですよ！
普段、ぽりぽりかいているじゃないですか。自分がアトピーだという自覚があるから、これを読んでいるのです。

アトピーの子供を持つ親御様へ

- ＞ ぽりぽりする子供を見ているあなたもつらいと思いますが、本人はもっとつらいのです。

「アトピーの完全治療を考える実践会」が提唱する

アトピー完治の条件と目標

- (1) 軟膏類（保湿剤含む）を一切使用しない。
- (2) 爆発しない体質をつくる。
- (3) 普段の生活の中でもぽりぽり搔かない。
- (4) 肌を触った時、全身にスベスベ感を感じることができる。

「アトピーの完全治療を考える実践会」では、この4点をクリアして完治とします。要するに普通の生活をする事です。人と接しているときにぽりぽり掻いたりして他人に不快感を与えていながら、「アトピーは治ったよ。薬塗ってないし。」とか言っている人は完治とはみなしません。

夏目漱石の「草枕」の冒頭の一節です。

山路を登りながら、こう考えた。

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかく人の世は住みにくい。

住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。

人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。やはり向う三軒両隣りにちらちらするただの人である。ただの人が作った人の世が住みにくいからとて、越す国はあるまい。あれば人でなしの国へ行くばかりだ。人でなしの国は人の世よりもなお住みにくかろう。……。

私の大好きな一節です。人間関係に疲れた時、よくこの本を手にします。

「草枕」本来の趣旨とは違いますが、私の言いたいことは、逃げてばかりはいられないことを申し上げたいのです。アトピーが治れば新しい世界が広がります。マイナス地点に立つ人はゼロ地点へ。ゼロ地点にいる人はプラス地点へ立つのです。

もう一度、アトピーとさよならする決意をしましょう。
私「ナオル」がサポートします。

「アトピーの完全治療の実践会」が提唱する “自然治癒”について

A アトピー患者が出てきたころの環境の変化

(データでの理論ではありません。)

- (1) 住宅の変化に着目してみます。昭和の高度経済成長期にアトピー患者が増加。原因もわからず、画期的な治療法もなくアトピー＝不思議と命名される。アルミサッシ等で機密性の高い住宅が普及し、プライバシーや防犯といったことが意識し始められます。エアコンも当たり前となりました。
- (2) 食べ物について、冷凍食品や加工食品が普及し始めます。パック詰めされた香料、合成着色料、防腐剤等の入った食品の始まりです。また、日常的に肉や魚を食べる食生活になる。
- (3) 農業について、きれいに見せる野菜の時代となります。傷があつたり変色している野菜なんてスーパーでみませんよね。きれいに見せるためには、当然、過度な農薬と化学肥料が必要となります。
- (4) 林業について、生育がよく栽培が容易な杉の植林が主流となる。
- (5) 工業について、工場の煙や廃棄物による光化学スモッグが問題となる。最近ではきかなくなりましたね。二酸化炭素の排出量も当時より減ってきています。
- (6) 飲料水について、水道が普及し塩素漬け。山間部にゴルフ場も多く、そこで使われた農薬や着色剤が水道水の素となる河川に流入するのが問題に。

今の、私たちの普通の生活です。何の疑問もない生活です。

アトピーのない30～50年前の農家の我が家の生活を思い出すと

- (1) 住宅の屋根は茅葺きか瓦で、壁は土塗り。窓は障子や木のサッシ。家の占有面積の半分くらいは土間。農作業や野菜の保存用に使用。田舎の我が家（築130年？+増改築）は玄関が6畳以上ありました。床は黒い土です。風呂は薪で焚き、台所も釜戸、リビングの中央には囲炉裏（＝後にほりごたつになる）、特に換気扇なんてなかったです。どこからか自然換気していたのですね。今でも不思議な構造。
- (2) 食べ物は野菜が中心。和食（ご飯、味噌汁、漬物、季節の野菜）が普通の食事でした。肉を食べるのは、家で飼っている鶏が卵を産まなくなったときや、正月やお祝いの日ぐらいでした。加工食品は豆腐、あげ、ふ、ねずみ色のかまぼこ、缶詰くらいだったように思います。
- (3) 農作物については、出荷用と家用の2種類分けて作っていました。農薬と肥料が全然違います。きれいで大きな野菜でないと、出荷させてもらえなかったからです。ある家では、出荷用の野菜にはドクロマークをつけて、間違っただけで家で食べないようにしていたなんていう笑えない話もあります。キャベツにはモンシロチョウの幼虫がウヨウヨ。りんごや柿の実を切れば中から虫がでてくる。日常的な事だったんですよ。
- (4) 林業（山林）も、雑木林が多かったが、大量消費の波に生育のよい杉の植林が主流となる。
- (5) 海岸沿いに太平洋ベルトと呼ばれる工業地帯が生まれる。水質汚濁、大気汚染による水俣病、ぜんそく等の公害病が注目される。
- (6) 飲料水については、水道は昭和初期には完備され始め、水道用の浄化管理センターができ始めたのが30～50年前。井戸水を使用していた家も多かったです。

同じ数字の項を対比してみてください。何か感じませんか。

アトピー対策として、よく耳にすることが、昔の人の生活に生きていませんか？

これをどう考えるかはあなた次第です。答えは、あなたの今の生活と住環境、アトピーの症状から導いてください。

B 何故、自然治癒なのか？

- (1) アトピー向け商品を買って治った（完治した）。
- (2) どこかの病院の薬を処方して治った（完治した）。

という話をきくよりも、何をやっても治らないという悲鳴の方をよく耳にしませんか。

何かをするから治りにくいのではないのでしょうか。

多分、みなさんもアトピーに関する本をいろいろ読んだことと思います。結局のところ、自然の力で体に免疫力をつけて完治したという結論に統一されていませんか？

そうです！！

自分自身の体に免疫力をつける“自然治癒”による方法しかないといっても過言ではないでしょう。

実際のところ、アトピーの特効薬は存在しません。あるとすれば、疑ってかかる方が普通でしょう。さまざまな自然治癒による方法も、何故、効果がない人がおおいのでしょうか？

結局、短期での完治はありえない。長期戦での治療なのです。

継続できるノウハウかどうか鍵となります。

- (1) 継続的にお金がかからない
- (2) 忘れないから継続できる。
- (3) 根治療には時間が必要なので、めんどくさいのはダメ。
- (4) 頑張る治療法は、効果をすぐに実感できないと続かない。
- (5) お金のかかる治療法は、効果をすぐに実感できないと続かない。
- (6) 難しい理論武装は、理解することで安心して終わり。

それゆえ、「アトピー完全治療の実践会」は
「誰にでもできる！アトピーの免疫力強化法」を提唱しています。

自然治癒に関する最強のノウハウは上記で示した昔と今の人の習慣の違いを応用したものです。上記にノウハウの3つの習慣のヒントはありません。基本的な考え方のみ同じです。

あなたのアトピーが完治することを心よりお祈り申し上げます。

「アトピーの完全治療を考える実践会」

Copyright(c) 2005 atopinaosu.nomaki.jp All Rights Reserved